

せせらぎ



令和元年 7月 3日発行 No.2

今回は、6年生社会科の授業の様子をお伝えします。蒙古襲来絵詞の絵や資料を基に、日本軍と元軍との戦いの様子を調べ、御家人(武士)たちが元寇後に幕府に対して考えたことを話し合いました。前の時間までに学習したことや教師から提示された資料などから、戦いの様子や幕府と御家人の関係などを考えることができました。西部教育事務所や甘楽町教育委員会の指導主事の先生方にも授業を参観していただき、ご指導いただきました。ありがとうございました。

経営訪問代表授業 6/25(火)

6年社会「武士の世の中へ」

指導者

ねらい「元と戦った武士たちの思いや戦いの後の幕府と武士の関係の変化を
考えることができるようにする。」

戦争? 武士? 弓? ヤリ? 「蒙古襲来絵詞」の資料を見て、子供たちはいろいろな反応を示し、興味津々の様子です。

つかむ

1. 「めあて」をもとう
2. 「見通し」をもとう



資料から、日本軍と元軍との戦いの様子について学習しています。

追究する・深める

3. 自分で解いてみよう
4. ともだちと相談しよう
5. みんなで話し合おう



元軍との戦いに勝った後、武士たちは満足したか? 満足しなかったか? 自分の名前マグネットをはきました。



その後、自分の考えを友達に伝え、いろいろな考えに気づきました。

まとめる

6. 「まとめ」をしよう
7. 問題を解いてみよう
8. 「ふりかえり」をしよう



幕府と武士との関係について、全体で話し合いました。

まとめ
「幕府と武士の関係は崩れ、幕府に対して不満を高めた。」

子供たちは資料を見て考えたり、話し合ったりすることで、幕府と武士の関係を考えることができました。

授業研究会では、「資料が的確でイメージをもちやすかった。ペア学習を要所に取り入れ、対話的な学びが効果的だった。」という意見が出されました。

